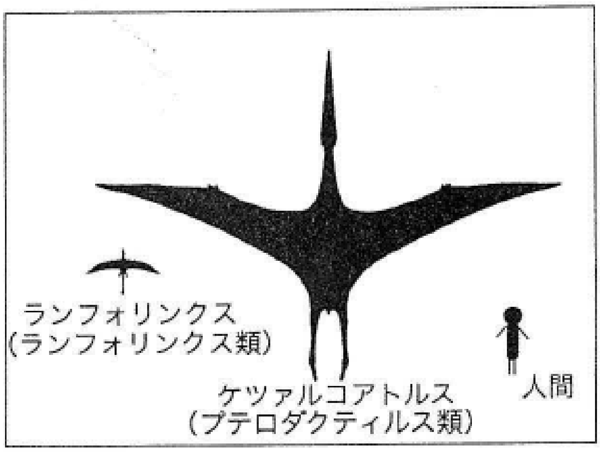
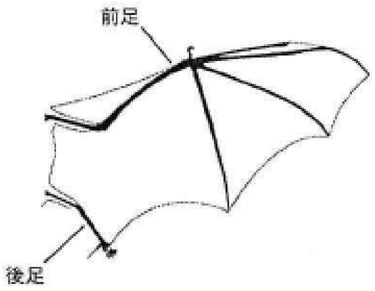
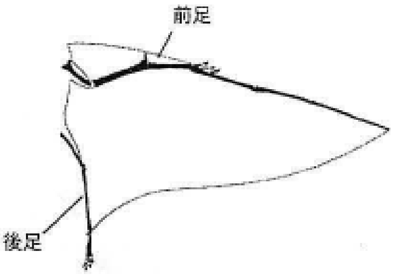
空飛ぶは虫類『翼竜』



　恐竜時代、大空を支配していたのは鳥ではなく、「翼竜」という「は虫類」でした。よく間違えられますが、翼竜は恐竜ではありません。翼竜は中生代三畳紀（約２億２０００万年前）に現れ、中生代白亜紀末（約６５５０万年前）に絶滅しました。翼竜には２つのグループがあります。ランフォリンクス類とプテロダクティルス類です。ランフォリンクス類は比較的小型（小さいものはスズメくらい）で、尾が長いのが特徴です。プテロダクティルス類は大型で、尾が短いのが特徴です。プテロダクティルス類には、プテラノドン、ケツァルコアトルスなどがいました。北アメリカで発見されたケツァルコアトルスはなんと、翼を広げた大きさが約１０ｍもありました。



コウモリの翼



翼竜の翼

　翼竜の前足には３本のかぎ爪をもった指があり、第４番目の指（人間でいうと薬指）が太く、長くのびて、そこからうすい膜が後足までひろがって、翼になっています。ちなみにコウモリは親指以外の４本の指すべてが翼のなかにあります。最近の研究では、翼竜は鳥に負けないくらいの飛ぶ能力を持っていたことがわかりました。ケツァルコアトルスなどの大きな翼竜は上昇気流をとらえて、グライダーのように滑空していたと考えられています。歯については、細長くとがったもの、ブラシのようなもの、歯がないものなど種類によっていろいろなものがありました。おそらく食べるものにあわせて歯の形が変化したのでしょう。

　大山地域からは国内初の翼竜類の足跡化石が発見されています。前足が３点と後足が１点で、後足の第５番目の指（小指）がとても小さいことから、プテロダクティルス類のものであると考えられます。前足と後足の足跡がついていることから、翼を折りたたんで、四足歩行で歩いていたと考えられます。科学博物館にも常設展示されていますので、ぜひ観察してください。北陸地方周辺では岐阜県高山市、石川県白山市から翼竜の化石が発見されています。翼竜の骨は体重を軽くして飛ぶために、中が空洞になっています。富山からも将来、翼竜の骨の化石が発見されるかもしれません。

（2007年12月20日　藤田将人）